

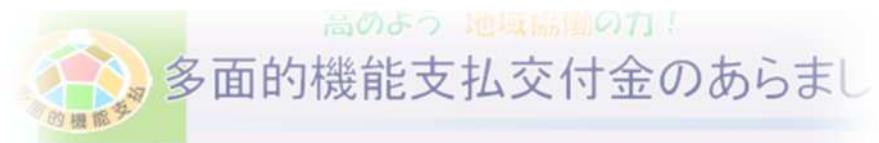
研修会趣旨説明



富山県農林水産部農村振興課

多面的機能支払交付金

- 平成26年度から、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進するもの。
- また、これにより、農業・農村の有する多面的機能が今後とも適切に維持・発揮されるとともに、担い手農家への農地集積という構造改革を後押しする。
- 来年度（令和7年度）から、第3期対策が始まる。



いま、「地域」は？



- ◆人口が減少し、後継者が不足
- ◆住民同士のコミュニケーションが薄れている
- ◆地域の集落機能が崩壊寸前
- ◆土地や建物の管理もままならない

過去50年の間に地域では・・・

真の課題は、

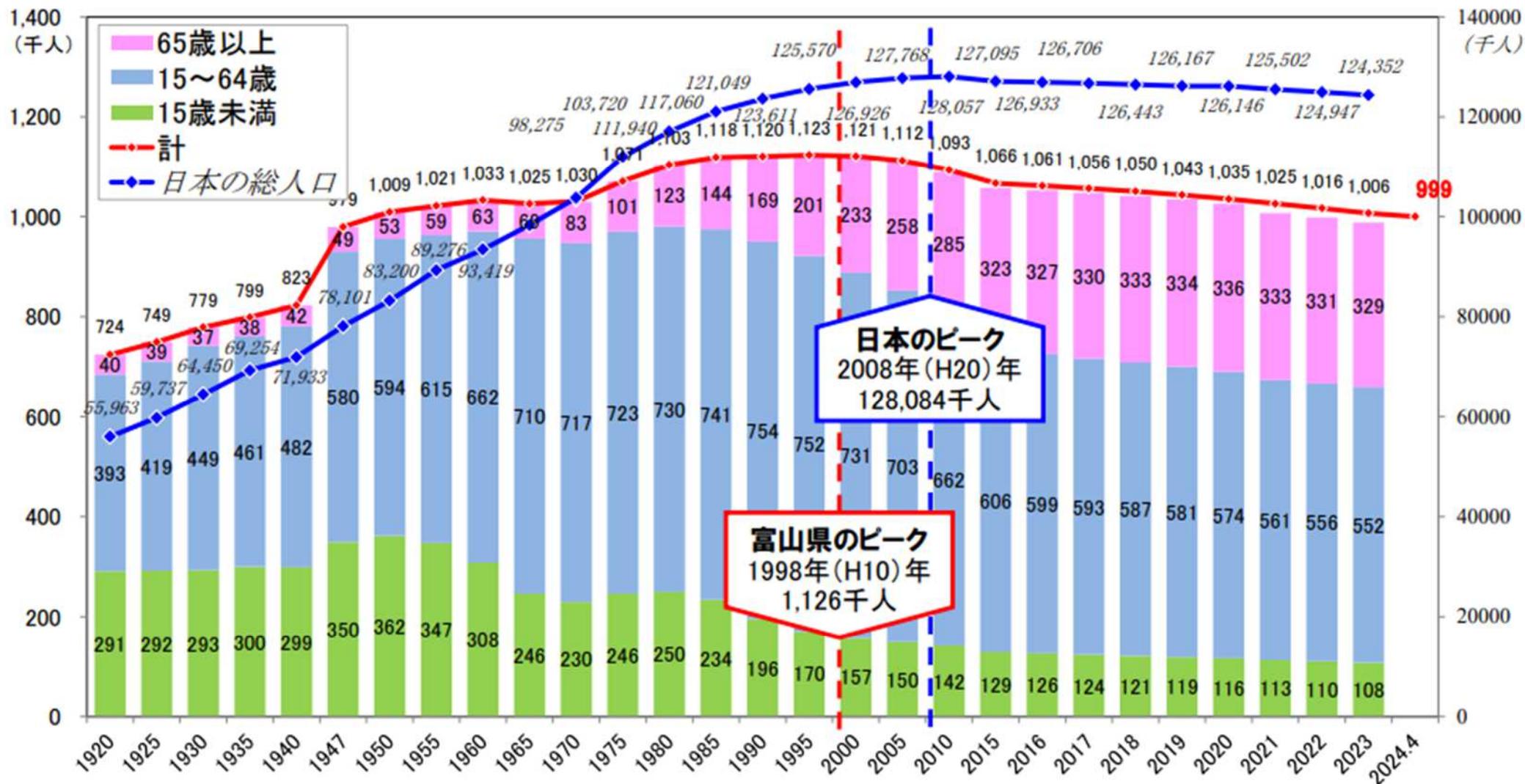
①少子高齢化による過疎化

②集落機能の低下

我が国と富山県のこれまでの人口推移

資料1

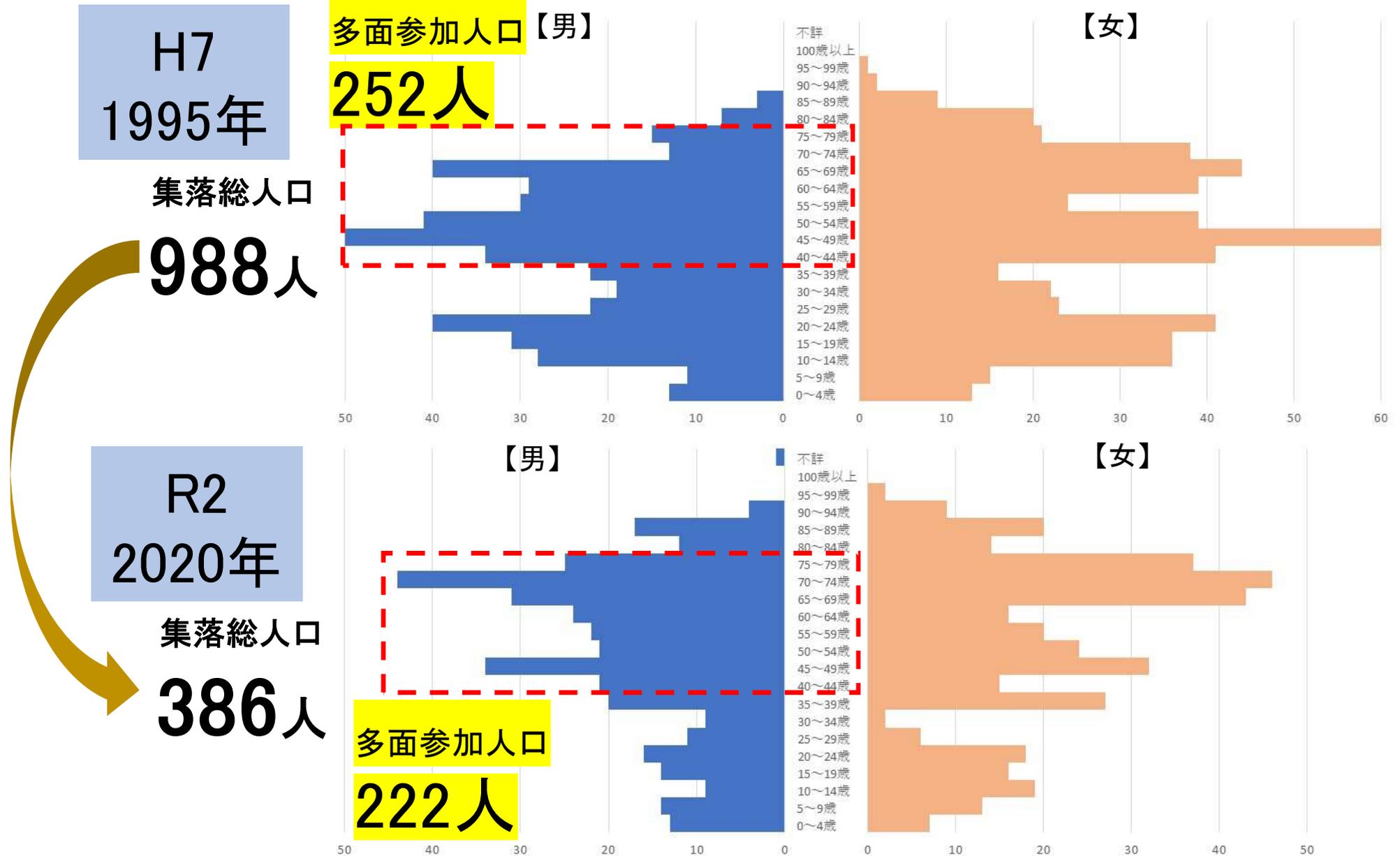
- 富山県の人口は、全国より10年早い1998（H10）年をピークに減少に転じる
- 年齢3区分別の人口構成をみると、65歳以上が拡大する一方、15歳未満は減少が続いており、人口構成が変化



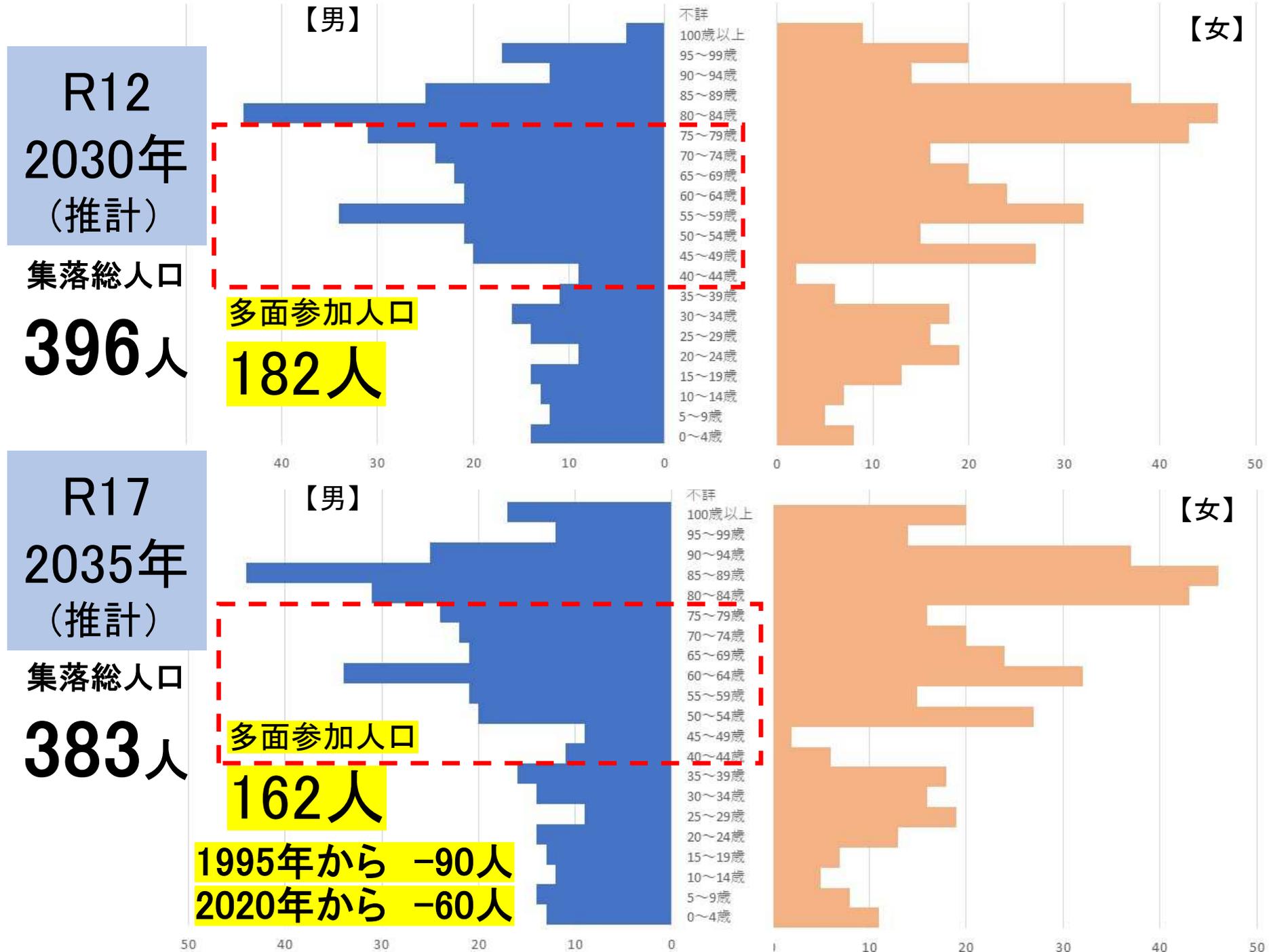
(出典) 総務省統計局「人口推計」、富山県「人口移動調査」(いずれも各年10月1日現在) ※2024.4は4.1現在

県内多面活動組織の集落Aの人口動態

- ・平成7年(1995年)から令和2年(2020年)の25年間で集落総人口は半分以下に。(国勢調査結果より作成)
- ・多面活動参加者の主な年齢層は、40歳～79歳※男性 = 多面参加人口

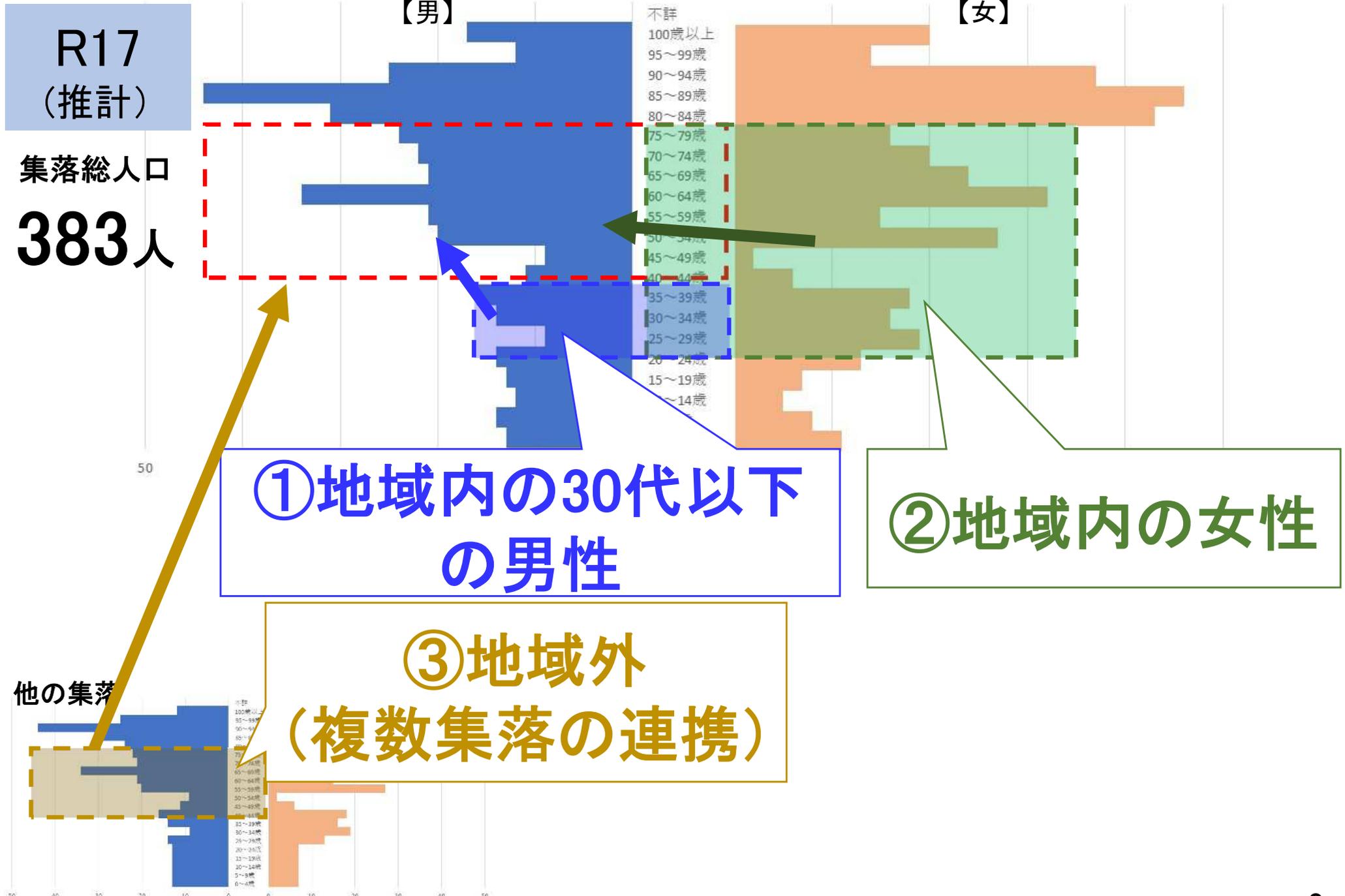


県内多面活動組織の集落Aの人口推計



※単純な推計: 転入転出、死亡等を考慮しない。出生率は、25歳～39歳の人口に係数を乗じて算定している。

県内多面活動組織の集落Aの人口推計



※単純な推計：転入転出、死亡等を考慮しない。出生率は、25歳～39歳の人口に係数を乗じて算定している。

地域の共同活動による保全管理は、ゆでガエル状態



【ゆでガエル現象】人や組織は、ゆるやかな環境変化には気づきにくく、対応が遅れるという現象



図：読売新聞より

気が付いたころにはゆで上がってしまう。
危機的状況をいち早く察知し、行動しましょう！

人手不足解決に向けて

キーワードは、

「地域の若年層・非農家の参画促進」

「複数集落による緩やかな連携」

- 本研修では、このテーマで、県内外の事例を紹介。
- 事例から感じたことを活動組織に持ち帰り、取り組みの継続に向けて話し合うきっかけに。

